

# 教育経済建設常任委員会行政視察報告書

富 永 悦 子

## ○福井県坂井市

### 学力向上に向けた取り組み及び教育環境の整備について

#### 【所 見】

丸岡南中学校は、福井県初の教科センター方式の学校として、平成18年度の開校以来、特色ある学習環境を生かした教育の在り方を模索し、毎月行われる「研究の日」には、福井大学の本校担当教授が来校して講義や指導・助言をいただく協働研究体制がとられ、授業づくりに力点を置いた取り組みを自主研究し継続している。

教科センター方式とは、すべての教科がそれぞれの専用教室とメディアセンターをもち必要な教材を常設することにより、教科特有の学習環境を構成している。生徒は毎時間、各教科専用の教室に移動して授業を受け、メディアセンターは各室に開かれたオープンスペースで、教科ごとに必要な図書・プリント・資料・情報機器などの教材が用意され、授業の流れに応じて自由に使うことができる。また、各教科の教師の主な居場所となるため、生徒の相談に気軽に応じ、生徒の自主的な学習を援助する場となっている。

さらに、「ひとり立ち清掃」と名付けて、思いやりの心と磨きの心で作業することで自主・自律の気持ちを養うことを目的に、清掃を行っている。「思いやりの心」とは周りで頑張る友達の気持ちを考えて協力し、自分のすべきことに無言で取り組むことである。「磨きの心」とは隅々まで目を行き渡らせ、任された持ち場を、責任をもってきれいにすることである。この清掃を通して相手の気持ちを考えた言動のできる、優しさや根気強さ、責任感に満ちた生徒の育成を目指している。

そして、給食は全校生徒と教職員全員が一緒にランチルームで食べる。あらかじめ示された2種類のメニューから選択することができる。自分で選んだメニューをきちんと食べるという自己責任の精神の滋養を図る指導をし、全校生徒と職員が毎日一同に集まる給食の時間は、生徒同士、職員と生徒が触れ合える時間であり「全ての生徒を全ての職員で見る」という本校のコンセプトに基づいた教育活動がなされている。

成果として、生徒の学習に対する主体性の増加、教科の専門性を活かした独自の学習環境や雰囲気づくりに、メディアセンターが役立つと、どの学年も80%の

生徒が答えている。しかし、教室移動に時間がかかる、オープンなスペースのため学習態度に落ち着かない生徒がいる、などの課題もある。充実した施設の中で学べる生徒は大変恵まれていると同時に、先生方の運営に掛かる労力も大きい。これらの事が学力向上に大いに関わっていると考える。視察研修では、教育長自ら案内に加わっていただき、教育に対する情熱を感じた。

## ○石川県小松市

### 企業立地支援制度について

#### 【所見】

小松市は、JR小松駅を降りると、東口には「こまつの木」があり、そこには建設機械の世界最大級のダンプトラック「930E」が駐車していた。世界的な建設機械メーカー創業の地であり、また、国内トップシェアを誇る企業が多数あり、それらの関連企業が立地するなど、産業集積が進み、工業が盛んな印象がある。

小松市では、最大10億円（県制度との併用で最大50億円）の企業立地助成金や低利融資などの優遇制度を設けており、その他の企業支援施策とともに、企業の立地をサポートしている。企業立地を促進することにより、小松市の産業振興や雇用拡大、都市機能の向上を図り、魅力ある都市基盤を形成し、定住人口及び交流人口の拡大を図ることを目的として、新設又は増設を行う事業で、次に掲げる基準を満たしている企業に助成をすとしている。(1)投下固定資産総額が5億円以上で、かつ、新規雇用者が10名以上 (2)投下固定資産総額が1億円以上で、かつ、常時雇用者が5名以上。ただし、事業者が中小企業者の場合に限っている。これらに合わせて条件を満たせば、次のような助成も行っている。廃水処理設備整備助成金・緑化推進助成金・雇用促進助成金・スマートエネルギー設備導入助成金などである。

足利市においても、あがた新工業団地が販売を開始している。多くの雇用と、市の活性化につながるよう、優秀な企業を誘致するために参考にしていきたい。